

COFFEE BREAK

■目指せ工作マスター

東部ブロック／荒崎ダイバー

今年も工作の季節がやってきた。中学生の長男の夏休みの宿題で過去2年作ってきた。

本来、私は手伝いで息子がメインで作るはずが、6対4で私が作ることになる。8月の一番暑い時期に作業を行うこともあって、製作途中で息子の心が暑さで折れるのだ。長男は今年の宿題は工作でなく研究にしようと言っていたので、助かったと思っていたのだが、今年中学生になった次男が作りたいと言ってきた。そういえば去年、羨ましそうに見ていた気もする。そんな事で今年も作るようになってしまった。去年はスツール、一昨年はギター置きだった。長男がエレキギターを買い出し、ギターを買い出す前にギター置きが無ければダメだろうと今ひとつ良くわからない理屈でギター置きを作ったのだった。結構自信作で、よく出来たと思ったのだけれど、学校へ持って行き、先生や友達に見せても、ギターが無いと何に使うものか良くわからないただの台にし見え、不評だったらしい。

スツールは大きく重すぎて、学校に持っていくことが出来ず、写真を提出して終わりだった。これも自信作だったのに。その失敗を踏まえて、次男に何が作りたいのか聞いてみると、椅子を作りたいとの事だった。しかもカッコイイ椅子だそうだ。次男に椅子は設計するのは楽しいけど、作るのは難しい、特に木材を曲面加工するのは素人には無理だと話したのだけれど、単純な物は嫌らしい。考えた末に、折りたたみ椅子を作ることに決定した。形は単純でも折りたためれば面白いということで次男も納得し、早速市販の椅子を分析し図面を書き製作に入った。盆休みに約2日掛けて作業を行ったのだが、またしても8月の暑さに次男は途中でギブアップし、6割は私が作ることになり、3年連続で盆休みは工作で終わってしまった。今年も自信作だと自画自賛し、いざ座ってみると・・・背もたれによりかかると後ろに倒れてしまうではありませんか。

やっぱり椅子は難しい。

■高層マンションブーム

中部ブロック／K

9月26日県が発表した世帯数の将来推計によると、2010年に139万7千世帯だった一般世帯数が、2015年をピークに2025年に137万1千世帯、2035年になると129万世帯まで減ると予測しています。人口は2010年の376万5千人から2035年には322万8千人に減ると推計しています。また、2035年になると2010年と比べ、世帯主が65歳以上の世帯が22%、75歳以上の世帯が64%それぞれ増加するそうです。高齢者の単独世帯が増える傾向が分かったと書いてありました。ということは、2015年以降住宅の着工件数も減少し、2世帯で住む家の減少により、建て替え需要も少なくなるということでしょうか。一方、近頃静岡市ではJR東静岡駅周辺やJR静岡駅・JR清水駅周辺地域に、タワーマンションや大・中規模のマンションが数多く建設されています。またJR草薙駅前にも高層マンションが建つそうです。驚くのはそれらのどのマンションにも、竣工時には「完売御礼」の垂れ幕が掛かっていることです。

ざっと見積もっても数百戸分はあるわけで、そもそもどういう人達が買われるのか、とても興味があります。いずれにしても戸建住宅の着工件数は減る傾向にあるということでしょうか。高齢者夫婦等が、郊外にあった戸建住宅を売って生活に便利な市街地のこれらのマンションに移住しているとしたら、益々従来の住宅地は人口が減り、困って生活関連の商店も減り、生活がし難くなる現象が気になります。また若い人達の多くが、住宅地に家を建てずに、中心地に立つマンションに住むようになって、益々住宅地の人口減少と高齢化が進むことも気になります。最近市街地周辺や郊外で、売地や売り家の看板をよく見かけるようになりました。また更地になったままの土地や、駐車場になった土地もよく見かけます。人口が増加している時代の大都市周辺の高層共同住宅の建設ラッシュではなく、人口が減少していく地方でのこれらの現象は、なにかバランスが取れていないような気がするの私だけでしょうか。

無礼句

■桁違い

西部ブロック／シュタイクアイゼン

最近の同じような事の繰り返しで変化が少なく退屈になってきた日常を何とか打破しようと思い、とりあえずアフリカ大陸最高峰“キリマンジャロ”に登ってみる事にした。皆さんご存じの通り“キリマンジャロ”はケニアとタンザニアにまたがる標高5,895mの単独峰、七大陸最高峰いわゆるセブンサミットの一つです。とりあえず登山専門のツアー会社の募集に応募して準備を進めて行くのですが、一般の旅行と同じで申込み書類の提出やらビザの手続き、保険の申込み等を進めます。一つ違うのは健康状態のチェックが厳しい。簡単な自己申告の健康チェックではなく、医師の診断表を提出する必要があります。たまたま最近に別の要件で病院に行った時にいでに受けた血液チェックの結果があったので、これで安く済ませようと、それを元に診断表をつくってもらった。ただ、食事制限なし前日飲酒に当日昼食後の検査結果、中性脂肪が異様に高く、さらに値が乱高下する特異な体質の為“正常値40～149mg/dl”のところ“1,489mg/dl”と言う“桁違い”な

値をそのまま提出してしまった。数日後、旅行会社の契約医師から“他の数値は正常なのにこの数値はあり得ない、桁を間違えて記載していないか”と質問が、そういう体質だと答えても信用してくれない。結局、再検査する事になったのだが、よほどいい数値を出さないと許可が出なさそう。かかりつけ医師と相談し、一日以上水以外は口にせず、その上で採血してみよう、それならおそらくそれなりの数値が出るはず、それでもダメなら諦めようと言う事に。で、結果はなんと“122mg/dl”で正常値、さすがにかかりつけの医師もこれだけ乱高下する人はいないと妙に感心。ほら見たことかと自分の特異体質に妙に自信を感じていたが、医師の“数値1,000mg/dlを超えると血液にラードのようなうわばみが出るから見た目でも解りますよ”の一言で中性脂肪を抑える薬を即日飲み始めてしまう私の、この小心者さ加減が悲しくも愛おしくなった“桁違い”な出来事でした。

■平成26年夏に想う

西部ブロック／一会員

昭和30年生まれの自分は、あと2年で還暦を迎えるのだと漠然と考えていた。私は会費を納めて一会員として穏やかに還暦を迎えるはずだった。2年前、事の成り行きから地区長になった。58歳となった今年はその流れで本会理事になった。そう思うと最近やたらと設計業務以外の仕事が多い。年齢からくる社会的責任ってやつか？

そんな折、結婚した長女から嬉しい知らせ！「9月にお父さんからおじいちゃんになるよ」日頃住宅に関わる事が多いためか、孫と聞いて三世代の住まいをふと思った。自分が子供の頃、実家を含めて近所でも三世代で住んでいる家がほとんどだった。遊び相手を探して突然訪問しても、おじいちゃんやおばあちゃんがいて、時には友達のお母さんが軒先で赤ちゃんにおっぱいをあげてたりして・・・

田舎々々していたがまったりとした時間がそこにあった。今はどうだろう。うちの娘が小学校の頃、遊び相手を探すため電話で連絡を取り合って親が送

り迎えした。周りを見ても共働きが多いため遊び相手を探すのもひと苦労だった。そのころから学童保育と言う言葉も出始めた。そんな娘も子供を産む年齢になった。時が経つのは早いものだ。

最近のセミナーでは新築住宅からリフォーム工事へと住宅市場規模の割合が移っていくと盛んに説いている。経済的にもこの先、今迄のように核家族で生活できる世帯がどれほどあるのだろうか。確認申請業務が主な仕事である小生にとっては新築物件が減ることは打撃である。でもこれも時代の流れなのだろう。我が家も三世代で暮らせる日が来るのだろうか。役もひと段落したら、孫の面倒でも見ながらのんびりやりたいものだ。